

道連ニュース

2011年4月号 No.58

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

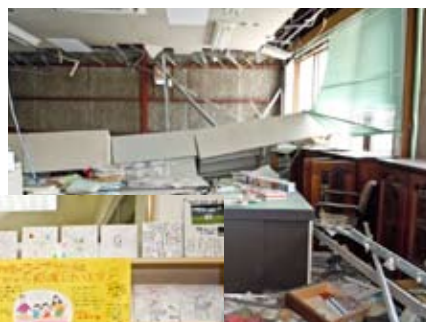
URL: <http://www.doren.coop>

日生協東北地連へ東日本大震災の見舞金をお渡ししました 2011年4月臨時理事会を開催

4月4日、当会は臨時の理事会を北海道生協連事務所にて中司議長（道労済生協専務理事）の議事進行で開催されました。報告事項は、①消費生活協同組合の検査結果、②東日本大震災に対する支援活動状況でした。議決事項は、①検査結果に対する業務改善、②東日本大震災に関り日生協東北地連への見舞金100万円の贈呈、③道教育大学生協の合併に伴う脱退届の受理の3件で、いずれも議決されました。その後、大震災に向けた今後の支援や対応策について意見交換がされました。

また臨時理事会の議決をうけ、道連事務局が4月18日に日生協東北地連を訪問し住吉事務局長に震災のお見舞いと見舞金の目録を手渡しました。半壊された事務所（みやぎ生協本部）をご案内頂き、現状は悲惨な状況で想像を絶するものでした。現在常駐のみやぎ生

協・生活文化会館に掲示された全国の生協仲間から激励の寄せ書きが心の安らぎを感じ復興に向けた元気を与えていました。



▲壁とキャビネットが机に転倒した日生協東北地連事務所の様子
◀全国生協からの激励の寄せ書き

「日本の生協の2020年ビジョン」学習会が開催されました

日本生協連の芳賀専務を講師に3月29日札幌すみれホテルで開催されました。コープさっぽろから25名など7会員36名が参加しました。学習会は伊藤副会長の挨拶・講師紹介のあと①論点と全国論議～1次案～2次案の全国論議、②いま何故ビジョンなのか、5つのアクションプランなどの答申の紹介がありました。

芳賀専務は東日本大震災の支援対策本部で東北3県トップとのホットラインを担っておられただけに、開催が一時危惧されていました。しかし当日は全国の生協の仲間の支援活動の一端の紹介や、全国連としての今後の支援活動（～特別会費の設定、ボランティアのコーディネート）の方向にも触れられ、ビジョンの学

習の内容が実践的に語られるものとなりました。

又、当日の日経コラム「震災が変える会社と社会の距離」に触れ、東日本震災の収穫として、社会的資本が根付いている＝困った時は助け合うという共助の精神や規律正しさ＝と分かった旨述べられました。

尚、学習会終了後には参加会員代表による感想交流会が1時間ほどもたれました。



第2回福祉活動交流会を開催しました

年2回開催の福祉活動交流会が3月24日に全労済北海道会館で5生協11名の参加で行われました。議題は各生協の報告と交流がメインで、8月開催以降の各生協の「お買物バスや配食サービス、子育て支援、社会福祉基金、助け合い活動、居宅介護支援、養成講座開催など、福祉に関する多様な取り組みが報告。その中で震災直後でしたので各生協の支援活動も報告され、その後意見交換をしました。

次年度に再度福祉活動を紹介するパンフレット発行は検討課題としました。当初予定の議題「全国地域福

祉交流会」の参加報告は3月11日の東日本大震災により開催中止となったため、コープさっぽろがポスター発表する予定の



発表する予定の説明を受けました。また日生協発行の地域福祉研究会のまとめ冊子も配布しました。

北海道教育大生協

教育大生協が合併により“北海道教育大生協(札幌)”に存続されました!

～5キャンパスの経営を相互に検証・学び・高め合う関係を作ります～

教育大学にあった5つの生協(札幌・岩見沢・旭川・釧路・函館)は、3月1日をもって一つの生協(=北海道教育大学生協)として新たなスタートを切りました。

2010年度の学生証のIC化、IC学生証の5キャンパス相互利用の必要性、大学の独立法人化後の大学の動向への対応、各生協の経営改善という新たな条件の下、5生協の合併を各生協の理事会や総代会議決、大学の同意等の協力を得て2011年1月に北海道の合併認可を得、3月に合併の登記を完了しました。

一つの生協になった今は、5キャンパスの組合員が5生協の店舗を相互利用でき、教職員の異動手続きや学内で複数の仕事をする教員組合員の二重・三重の加入の解消。また、組合員数5,800名、出資総額98百万円、供給高5億8千万円の規模の大学生協になり、教育大学に共通した商品やサービスの提供を進めること、経営の安定性の向上、重なっている経費の削減などを展開できるようにしました。

広域の大学生協になり、同じ教育大でもキャンパス

によって違いがたくさんありますが、小規模生協の良さを失うことなく各キャンパスに支部運営委員会を置き、今まで学生教職員に支えられ培ってきた力を背景に、各キャンパスの生協の事業と経営、学生委員会活動をまとめ進めていきます。理事会と支部運営委員会を組み合わせ、実質のある運営のあり様を探っていきます。



教育大の総代会(札幌)

北海道労済生協

東日本大震災の被災者宅への訪問活動をすすめています

この度の地震により被害を受けられたすべての皆様に謹んでお見舞い申し上げます。また、被災された皆様の一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

全労済では地震発生直後の3月11日午後4時に災害対策本部を立ち上げ、被災者対応を最優先課題として対応策の協議に着手しました。その後、一日も早い共済金の支払いを目的に、被害が拡大した千葉県・茨城県・福島県・宮城県・岩手県に北海道を含む全国からの応援要員を大規模派遣し、被災されたご加入者宅への訪問活動を継続しています。

これからも、生活協同組合としての「助け合い」の精神を最大限発揮し、全労済グループ全役職員総力をあけて組合員の皆様の生活再建の支援に努めていきます。



住宅に甚大な被害を受け、肩を落とされている方がほとんどですが、一日も早い支払いに向け住宅損害調査を全力で行っています。ご加入者より「来てくれて安心しました」との声もいただきます。

札幌医療生協

被災地に対する災害医療支援活動を行っています

3月11日午後2時46分頃、東北地方太平洋沖にてM9.0の地震が発生し、各地に甚大な被害をもたらしました。当グループ(徳洲会グループ)からも震災当日よりTMA T(徳洲会災害医療援助隊)が派遣され、医師・看護師・コメディカル・事務員等、数百名単

位の人的支援の他、義援金活動にも協力もさせていただきました。当院からも看護師が被災地(仙台)へ応援に行き、医療活動に従事しました。今後も微力ながら、復興支援活動に協力していきたいと思ひます。

北海道庁所轄部の人事異動(2011年4月1日発令)

【環境生活部 くらし安全局 消費者安全課 消費企画グループ 生協担当】*敬称略

環境生活部長 田中 正己
くらし安全局長 中西 猛雄
消費者安全課長 千葉 俊文

消費企画グループ 主幹 近藤 哲司
主査(調整) 梅田 敦史(新任)
主事 荒木 祐亮(新任)